

救急処置		講義	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	11321103 11531111 12332101 12531111

1. 授業のねらい・概要

救急法・応急処置法および学校安全の基礎を学び、教育現場における安全管理や危機管理に関する知識および技術について学習を行う。

2. 授業の進め方

救急法に関しては、AHAガイドラインに沿った日本国内の心肺蘇生法ガイドラインについての学習および実習を行う。応急処置法は教育現場で起こりうる各種トラブルに関する処置方法について具体的事例を通して学んでいく。また、リスクアセスメントおよびリスクマネージメントの考え方を学び、教育現場における危機管理体制の事例について学習を進めていく。

3. 授業計画

1. 救急法および応急処置法の概念	9. ショックおよび意識障害の種類と対処方法について
2. 学校安全の構成および構成員、リスクアセスメントとリスクマネージメント	10. 水の事故とその予防方について
3. 保健統計およびマスコミ報道からみる不慮の事故と安全管理	11. 熱中症とその予防方について
4. 救急法に必要な解剖学、生理学、生化学および生物学的知識 について	12. 野外活動におけるリスクおよび救急法、危険な動植物に関する基礎知識
5. AHAガイドラインと日本国内の心肺蘇生法ガイドラインについて	13. 災害時の救急法・応急処置法、傷病者と救護者の安全確保
6. 一次救命処置についての理論学習（AED の使用方法含む）	14. 学校内での安全体制の整備と今後の課題
7. 一次救命処置の実際（AED の使用を含む）	15. まとめ
8. スポーツ外傷と応急処置法および止血法について	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業の最後に次回のテーマに関連した課題を出すので、受講までに準備を行うこと。また、ノート提出を行い学習状況の確認を行うので、毎回の授業について復習を行いながら、ノートを整理しておくこと。（2時間程度を必要とする内容）

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後もしくはミニレポート提出後に、解答のポイント、出題意図等についての説明を行う。

6. 授業における学修の到達目標

救急法の基本理念を理解し、救急法や応急処置法の基本的技術の理解と習得を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への貢献度・積極性、ミニレポートなどの平常点：20%、レポート・試験等 80%

8. テキスト・参考文献

テキスト：緊急・応急処置 Q&A

参考文献：衛藤 隆他 『最新Q&A 教師のための救急百科』 大修館書店

9. 受講上の留意事項

理解度確認のためにミニレポートの作成もしくはミニテストを行うことがある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。